



# 農業とSDGsでつなぐ豊かな未来



SDGsは、すべての人間が将来にわたって豊かに安心して暮らすための取り組みです。

農業は食料を生産するだけでなく、環境保全や地域社会への貢献などSDGsの活動にも深く関わっています。

今回の特集では、豊かな未来を創るために取り組む農業者や団体を紹介します。

## 持続可能な開発目標「SDGs」

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは世界全体で取り組む普遍的なものであり、JAグループとしても積極的に取り組んでいます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標





12 つくる責任  
つかう責任



15 隣の豊かさも  
守ろう



8 集きがいも  
経済成長も

11 住み続けられる  
まちづくりを



4 質の高い教育を  
みんなに

## 将来の農業の担い手に期待 JAいわて平泉



いちのせき しりつさくらまちゅうがっこう  
一関市 一関市立桜町中学校

一関市立桜町中学校では、令和2年度に岩手県フラッグシップ米「金色の風」の栽培に携わり、達増拓也知事との田植えや稻刈りを行った他、バケツ稲に初めて取り組みました。今年度は、さらなる取り組みを目指し「JAいわて平泉×桜町中学校アグリ・タッグ・プロジェクト」として通年での農業体験学習における指導やサポートをJAが行い、次世代を担う生徒たちの健全育成支援に取り組んでいます。2年生104人は、一関地方の農業について学んだ他、圃場の石拾いや田植え、リンゴ農家の管理作業や収穫作業を行いました。技術科の時間では「金色の風」のバケツ稲にも取り組みました。

体験学習を通じて食と農の関わりや地域農業に理解を深めていきたいです。

12 つくる責任  
つかう責任

## 地域農業の未来を担う

JAいわて



山田町・豊間根 集落営農組織「ゆたか農産やまだ」

山田町内の水田の耕作放棄地を借り受けて大豆の栽培管理、および地域の担い手支援に取り組んでいます。昨年の作付は26ha、目標収量は10a当たり150kgで、一部課題は残るもののがおむね良好な結果となりました。

設立してから2年経ちますが、関係機関・団体の指導をいただきながら、作業内容や役割分担など会員同士で話し合い、着実に活動を進めています。

将来的には法人化も視野に入れており、耕作放棄地の解消や耕畜連携に向けた取り組みをさらに進めていきたいと思います。震災後の影響や高齢化など、さまざまな問題がありますが、力を合わせ、将来にわたって農業が続けられる地域を目指します。

4 質の高い教育を  
みんなに

## 地元園児にリンゴ栽培伝える

JAいわて中央



盛岡市・下太田 藤澤 孝一さん（73）

私は小学校の音楽教師を長年勤めた後10年前に就農し、そこから毎年地域の保育園の園児を招いてリンゴ収穫作業体験を行っています。祖父の代から始めて約100年になり、今年は4カ所の保育園から園児約200人を招き、日頃から一緒に作業しているリンゴ農家仲間やお伝いの4人で子どもたちに教えました。体験では分かりやすい言葉で収穫の仕方をゆっくり説明することや、体験中にケガの無いように環境整備を心掛けています。

体験を通じて子どもたちに農業に興味を持ってもらい、農業の未来も明るくなってくれることを期待したいです。将来農業に携わるなど、直接結びつかなくても、リンゴを思い浮かべた時に木の上で赤く実っている情景や自分の手で収穫した経験が、少しでも記憶として残ってくれたら嬉しいですね。今後も体力の続く限り、活動を行っていきたいです。

8 働きがいも  
経済成長も

## 働きやすい環境作りを目指して

JAいわて花巻

農業に興味がなかった私ですが、農業を始めたくなり両親や地域の先輩方にお世話になりながら育てられ、就農して23年が経ちます。約15年前からは作業の人手が足りず雇用を始めました。働いてくれる人を自分で声を掛けて探していましたが、令和元年にJAいわて花巻が無料職業紹介所「アグリワーク」を開所したので利用しています。

我が家では通年雇用が難しいため、繁忙期の時期雇用になってしまいますが、年齢を問わず農業で働いてみたいという意欲のある人たちを対象に雇用創出に取り組んでいます。子育て世代でも働きやすいように、土日休みや急な休みにも対応します。いろいろな作業がある中で、その人に合った適正作業を見極め、働きやすい環境作りにも取り組んでいます。

花巻市・葛 稲葉 透さん（58）



11 住み続けられる  
まちづくりを



## 幼い頃の記憶に残る風景を未来につなぎ JA岩手ふるさと



奥州市・胆沢 佐々木 憲也さん(37)

令和元年に就農し、現在水稻4ha・露地ピーマン10a栽培しています。農業を始めてみると、奥深さや大変さを身をもって感じ、丹精込めて栽培したというのに、自分の努力とは無関係に下がり続ける米の価格に落ち込んだこともありました。それでも自分が育てたお米や野菜が食卓に届き、おいしいと喜んでもらえることに幸せや手応えを感じています。

私が生活する地区では、水田地帯の中にエグネ(屋敷林)で囲まれた民家が点在する「散居集落」といわれる景観が広がります。日本の原風景といわれる美しい田園風景を丁寧に農地管理・維持する農業を実践していくことで、幼い頃から記憶に残るこの風景を未来の子どもたちに残していきたいです。

15 陸の豊かさも  
守ろう



## 地域に根付く農業とブランドを未来につなぐ JA江刺

JA江刺

平成29年に就農し、水稻の栽培と牛の飼養に取り組んでいます。

地域では稲わら・もみ殻を家畜の餌や敷料にするといった循環を基本とする「江刺型農業」や、「江刺金札米」をはじめとする農畜産物ブランドが当たり前のものとして根付いています。ずっと昔からこの土地で農業に向き合い、ブランドを築き、次の世代につなぎ続けてきた先人たちのおかげで今があることを思うと、感謝と誇りを感じます。

私の家族は、農業や地域に向き合いながら、私を育ててくれました。私も安全・安心でおいしい農畜産物を未来につないでいきたいですし、農業を仕事の一つとして知ってもらい、好きになってもらえるような情報発信にも取り組んでいきたいです。

奥州市・江刺 及川 貴士さん(31)



4 質の高い教育を  
みんなに



## 地域と共に紡ぐ伝統 JAおおふなと

JAおおふなと



大船渡市 大船渡市立日頃市小学校

大船渡市立日頃市小学校は、地元で盛んな米作りについての理解を深め、「食」の大切さを学ぶため、同校近くの学習田で農業体験活動を行います。昭和58年から続くこの活動は、地元の宿八幡会会員の協力のもと行われる伝統行事で、JAおおふなとの水稻苗提供により、今年度は5月に「ひとめぼれ」の苗を植え、10月には親子行事として収穫作業を行いました。

子どもたちが実際に米農家の方々から指導を受けることができるのには、お米を作る大変さ、そして生きることに欠かせない「食」の大切さを学べる貴重な体験です。農業体験活動を通して、ご飯が食卓に並ぶまでにはさまざまな手間がかかり、多くの人たちに支えられているということを改めて実感しました。